

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 10年12月

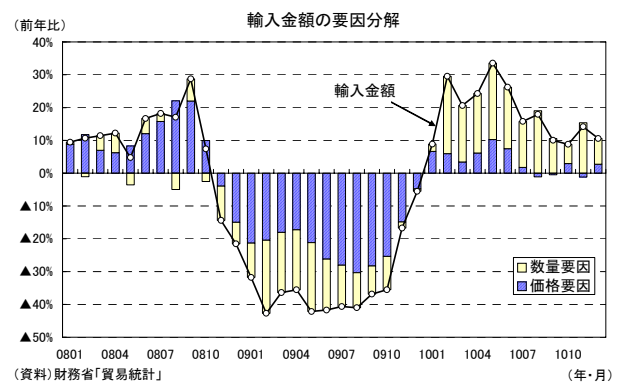
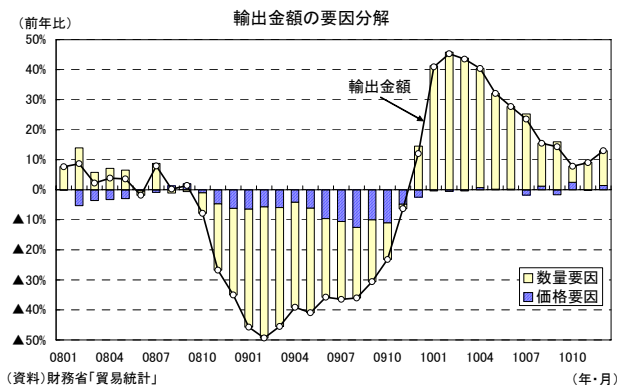
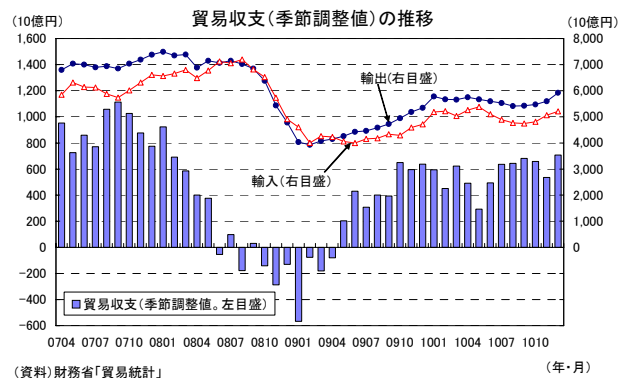
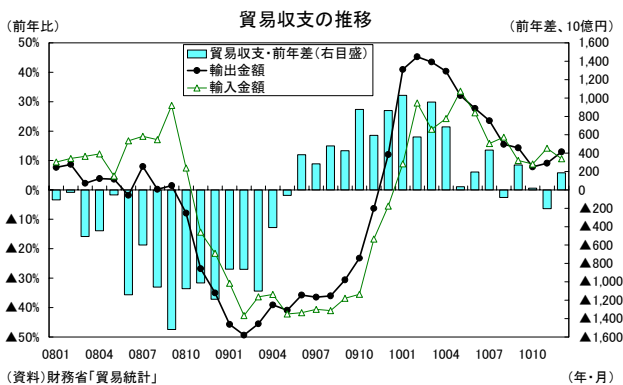
～10-12月期の外需寄与度は前期比▲0.1%程度のマイナスだが、輸出は持ち直しの動き

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸出の伸びが大幅に拡大

財務省が1月27日に公表した貿易統計によると、10年12月の貿易収支は7,277億円の黒字となり、事前の市場予想（共同通信集計：4,344億円、当社予想は5,610億円）を大きく上回った。輸出の伸びが大幅に拡大する（11月：前年比9.1%→12月：同13.0%）一方、輸入の伸びが鈍化した（11月：前年比14.2%→12月：同10.6%）ため、貿易黒字額は2ヵ月ぶりに前年の水準を上回った。季節調整済の貿易収支は7,073億円の黒字となり、黒字幅は前月の5,360億円から大きく拡大した。円高の進行に歯止めがかかったこともあり、輸出（季節調整値）が4ヵ月連続、輸入（季節調整値）は3ヵ月連続で前月よりも増加した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比11.5%（11月：同9.2%）、輸出価

格が前年比 1.4% (11月:同▲0.1%)であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比 7.7% (11月:同 15.5%)、輸入価格が前年比 2.7% (11月:同▲1.1%)であった。

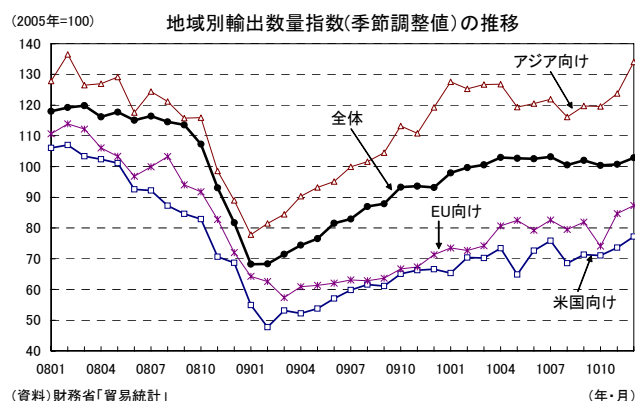
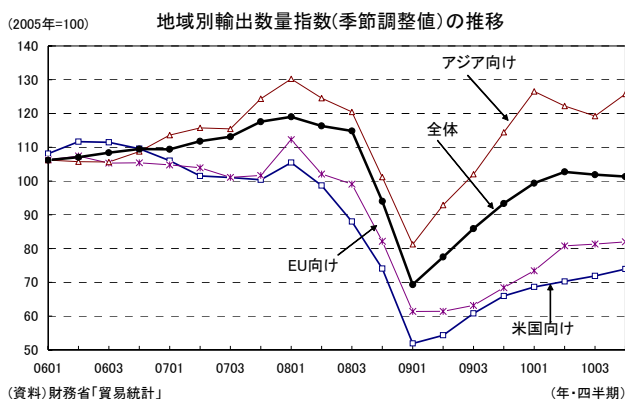
## 2. 輸出数量はアジア向けを中心に持ち直しの動き

12月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 16.2% (11月:同 11.5%)、EU向けが前年比 22.1% (11月:同 25.8%)、アジア向けが前年比 11.8% (11月:同 11.3%)であった。

10-12月期の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前期比 2.9% (7-9月期:同 2.3%)、EU向けが前期比 0.8% (7-9月期:同 0.7%)、アジア向けが前期比 5.5% (7-9月期:同▲2.4%)といずれの地域向けも上昇したが、全体では前期比▲0.6% (7-9月期:同▲0.8%)と2四半期連続でマイナスとなった。これは、主要3地域(米国、EU、アジア)向け以外の輸出が低調だったためである。

10-12月期の輸出数量指数は7-9月期に続き前期比で低下したが、月次ベースでは11月(前月比 0.4%)、12月(同 2.1%)と2ヵ月連続で上昇している。特に、10年度に入り低調な動きが続いていたアジア向けの輸出が再加速し始めたことは先行きの輸出動向を見る上で明るい材料と言える。11年1-3月期の輸出数量は3四半期ぶりの上昇となることが予想される。

一方、10-12月期の輸入数量指数(季節調整値)は前期比▲0.6% (7-9月期:同 1.4%)と6四半期ぶりに低下した。国内需要の低迷を反映し、輸入はこのところ弱めの動きとなっている。



## 3. 10-12月期の外需寄与度は前期比▲0.1%程度のマイナスに

12月までの貿易統計と11月までの国際収支統計の結果を踏まえて、10-12月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出は前期比▲1%台前半となり7四半期ぶりに減少することが見込まれる。輸入も前期比▲0.5%程度と6四半期ぶりに減少するが、減少幅は輸出よりも小さくなるだろう。この結果、10-12月期の外需寄与度は前期比▲0.1%程度(前期比年率▲0.5%程度)となることが予想される(7-9月期の外需寄与度は前期比▲0.0%)。

当研究所では1/31に発表される鉱工業生産等の結果を受けて、同日のweeklyエコノミストレターで10-12月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。外需が成長率を押し下げることに加え、エコカー補助金終了後の自動車の反動減に伴う民間消費の落ち込みなどから国内需要も前期比マイナスとなることから、現時点では前期比年率▲1%台半ばのマイナス成長を見込んでいる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。